

HA8000 クラスタシステムの Intel コンパイラについて

システム運用係

HA8000 クラスタシステムで以下の Intel コンパイラを利用可能としました。

- Intel Fortran Compiler for Linux 10.1
- Intel C++ Compiler for Linux 10.1 (C を含む)

利用方法

- Fortran

```
$ source /opt/intel/fce/10.1.008/bin/ifortvars.sh  
$ ifort test.f
```
- C

```
$ source /opt/intel/cce/10.1.008/bin/iccvars.sh  
$ icc test.c
```
- C++

```
$ source /opt/intel/cce/10.1.008/bin/iccvars.sh  
$ icpc test.cpp
```

注意事項

- `csh/tcsh` を利用している場合は、`source` するファイル名（下線部）の最後を `.csh` にしてください。
- 32bit モードを利用する場合は、`fce`, `cce` の部分（二重下線部）をそれぞれ `fc`, `cc` にしてください。`fce`, `cce` は 64bit 用です。
- Fortran、C/C++ 合計で同時 8 ライセンスです。同時利用（コンパイル）が 9 以上になると、待たされます。
- マニュアルページ（`$ man ifort` 等）が参照できます。
- Intel Compiler を使う MPI は

```
/opt/itc/mpi/mpich-mx-intel
```

にインストールされています。ログインシェルが `bash` の方（デフォルト）は

```
source /opt/itc/mpi/mpiswitch.sh mpich-mx-intel
```

とすれば `PATH` などが自動的に設定されます。
その後 `mpif90`, `mpif77`, `mpicc`, `mpicxx` でコンパイルしてください。
- MKL (Math Kernel Library) を使用する場合は、ログインシェルが `bash` の方は

```
source /opt/intel/mkl/10.0.3.020/tools/environment/mklvarsem64t.sh
```

とすれば `PATH` などが自動的に設定されます。